

(2000円)

特許願

昭和46年9月10日

特許庁長官 井土武久殿

1発明の名称

ジテンキレンゾクホツショリロ
自転式連続熟処理炉

2発明者

ナゴヤミドリナルベチヨウコウノス
住所 愛知県名古屋市緑区鳴海町浜森之池55-20
力トウヨシ一郎
氏名 加藤 錠 雄 (ほか1名)

3特許出願人

ナゴヤミナミホシサヰチヨウクリヤン
住所 愛知県名古屋市南区星崎町字緑出66番地
ダイドウセイコウ
名称 大同製鋼株式会社
イシイケンイチロウ
代表者 石井健一郎

4代理人

〒100
東京都千代田区丸の内二丁目4番1号
弁理士曾我道也(57887)丸の内ビルディング4階
電話(03)5811(代表)

5添付書類の目録

- (1)明細書 /通
(2)図面 /通
(3)委任状 /通

16 069749

方審(北辰)

明細書

1発明の名称

自転式連続熟処理炉

2特許請求の範囲

両端の入口および出口にシャッタを有した傾斜を自在に調節できる炉本体、炉本体の入口側に設けられる被熱物を並べて取せるテーブル、このテーブルに設けられていて被熱物を1個づつ炉本体の入口に押し上げて炉本体内に送入するための上下動するピストンノック、炉本体内的ガイドレール上を自転移動する加熱された被熱物を1個づつ炉本体の出口に押し上げて炉本体の外へ送出するための上下動する別のピストンノックを備え、丸棒および球の様な被熱物を連続して熟処理するための自転式連続熟処理炉。

3発明の詳細な説明

この発明は丸棒および球の自転式連続熟処理炉に関するものである。

従来、丸棒および球等の被熱物を熟処理する場合に、一般に球の場合にはソルトバス炉で、

⑪特開昭 48-36011

⑬公開日 昭48.(1973)5.28

⑫特願昭 46-69749

⑭出願日 昭46.(1971)9.10

審査請求 未請求 (全3頁)

庁内整理番号

⑮日本分類

6554 42	10 A71
6554 42	10 A712
6800 32	67 L0

丸棒の場合はピット炉または箱形炉等にて夫々バッチ操業されている。また、これら丸棒および球の熟処理に連続炉が使用されることがある。しかし、これらの熟処理炉にても、被熱物を入れるバスケットや被熱物を搬送するコンベヤおよびトレイ等を高価な耐熱鉄で製作したものを使用するために必然的に設備費が高価になり、更にコンベヤ、トレイおよびバスケット等を被熱物と共に加熱せねばならないために熱効率が悪く、熟容積の大きな設備が必要とされる。また、丸棒および球等を加熱する際に出来るだけ均一に加熱するため、これら丸棒および球を回転しながら加熱すれば一般に性能が向上される。

従つて、この発明は上述の点を一举に解決し熱効率がよく、安価で且つ高度な熟処理性能を有する丸棒および球の自転式連続熟処理炉を提供するのを目的とするものである。

この発明の他の目的と特長は以下の添附図面に沿つての詳細な説明から明らかになろう。

図面に示される様に、この発明の自転式連続熱処理炉は駆動装置¹により被熱物²を自由に駆動できる炉本体^Aを備えている。炉本体^Aの入口側には丸棒および球の様な被熱物²が並べて置かれてるテーブル¹が設けられている。このテーブル¹には例えば流体シリンダ装置の様な適宜な装置にて上下に作動されるピストンノットカ³が設けられていて、被熱物²を炉本体^A内にノ個づゝ送る様にしている。炉本体^Aの入口側のシャッタ⁴を押しつぶして炉本体^A内に入つた被熱物²は炉本体^Aの傾斜にもとづいてガイドレール⁵上を回転しながら移動する。炉本体^A内を回転移動していく際に、被熱物²は発熱体またはラジアントチューブの様な適宜な熱源⁶により加熱される。また、加熱の際に被熱物²の酸化を防止するために送入管⁷から昇圧ガスが炉本体^A内に供給される。

この様にして所定の温度に加熱された被熱物²はピストンノットカ³と同様に適宜な流体装置により上下動される炉本体^A内のピストンノットカ³、⁴は被熱物²、⁵はピストンノットカ³、⁶はガイドレール、⁷はシート、⁸は熱源である。

特開昭48-36011(2)
カ⁹によつてノ個づゝ炉本体^Aの外に放出される。シャッタ⁴をくぐり出た被熱物²はシート⁸の上を転つて油冷または水冷¹⁰され、油冷または水冷されて適宜なコンベヤ装置により運び出される。炉本体^Aの入口および出口のシャッタ⁴、⁹は炉本体^Aの外への駆動気ガスの放出損失を極力少くする。また、炉本体^Aの出口には調節装置¹¹が設けられていて、被熱物²の寸法に応じて前後に動かしてピストンノットカ³により同時に2個以上送らない様にしている。

この様に構成されたこの発明の自転式連続熱処理炉に依れば、被熱物が燃焼した炉本体内を自転しながら移動するので、特別なバケツやコンベヤ等はトレイを必要とせず、ために構造もコンパクトで、簡単な構成をなし、安価に且つ効率よく有効につくるのがである。

【図面の簡単な説明】

図面はこの発明の自転式連続熱処理炉を示す断面概要図である。図中、^Aは炉本体、¹はテ

(3)

ーブル、²は被熱物、³、⁴はピストンノットカ³、⁴はガイドレール、⁵はシート、⁶は熱源である。

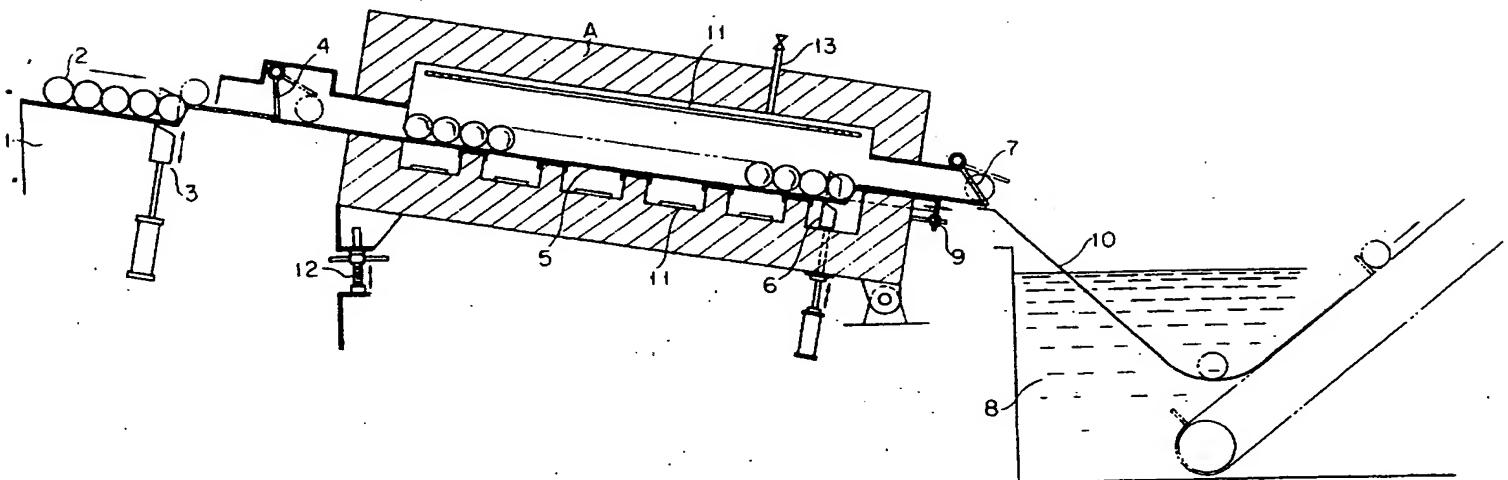
特許出願人 大同興業株式会社

代理人 曽我満

BEST AVAILABLE COPY

(4)

BEST AVAILABLE COPY



6 前記以外の発明者

姓 名 オオガキ ニシノカワチヨウ
住 所 岐阜県大垣市西之川町 / 625番地
トヨタタケマサ
氏 名 正